

開催ブロック	関東・甲信越ブロック
日時	2025 年 10 月 4 日 13:00~16:00
趣旨・目的	初めてインディアカに触れる学生も楽しめるよう、インディアカ授業の導入や展開法を体験することを目的に、公益社団法人全国大学体育連合（以下、大体連） 関東支部及び一般社団法人 日本インディアカ協会（以下、JIA）との共催により「インディアカ授業の導入、展開法」と題しインディアカの実技研修を実施した。
会場	千葉工業大学 新習志野キャンパス 体育館（千葉県習志野市）
スケジュール	<p>司会進行：千葉工業大学 金田 晃一先生</p> <p>13:00~13:05 開講式（開会挨拶 大体連 松本大学 中島 弘毅先生）</p> <p>13:05~13:30 インディアカの特徴や特性についての理論的解説 （JIA 指導技術委員長 小松原 麻紗子先生、常葉大学短期大学 田村 元延先生）</p> <p>13:30~13:50 実技 1：道具を使わないで準備運動にもなるアイスブレイクプログラム体験 （関東・甲信越ブロック 全国幹事 鎌倉女子大学 西島 大祐先生）</p> <p>13:50~14:20 実技 2：インディアカボールを使った、ゲーム展開につなげる導入プログラム体験 （田村先生）</p> <p>14:30~15:45 実技 3：ゲーム体験～授業での工夫や支援法解説などを盛り込みながら～ （小松原先生）</p> <p>15:45 まとめ（田村先生、小松原先生、JIA 広報委員長 東海大学 北濱 幹士先生）</p> <p>16:00 終了挨拶（関東・甲信越ブロック 全国幹事 東京福祉保育専門学校 沖 雅美） 修了証配布（中島先生） 資格取得説明（JIA 理事）</p>
参加者数	24 名（内、認定校関係者 7 名）
内容紹介	インディアカは、ブラジルの伝統的な遊びである「ペテカ」をルーツに、ドイツで考案・発展したスポーツである。1936 年、ドイツのカールハンス・クローン氏がブラジルを訪れた際にペテカを目にし、ドイツに持ち帰って用具に改良を加え、ルールを設けて新しいゲームとして考案したのが現在のインディアカの原型と言われている。日本では 1970 年代にレクリエーションスポーツとして普及した。バドミントンのダブルス用コートを使用し 1 チーム 4 人がバレーボールのようにローテーションでサーブを行う。今回の講習会では、授業にインディアカを導入できるよう基本技術の習得からゲームまでを体験した。また特に、インディアカ導入の準備運動という位置づけで、アイスブレイキングゲームを西島先生に進行していただいた。田村先生の授業実践報告にもある通り、インディアカを楽しむために大切なことの一つに「声を掛け合うこと」がある。そこで、初めて会った先生方のお名前を覚え、コミュニケーションを深めるゲームはインディアカ導入に効果的であった。
補足	JIA 報告記事 <a href="https://japan-indiaca.com/20251004-2/">https://japan-indiaca.com/20251004-2/</a>
所感	今回の研修会は大体連関東支部、日本インディアカ協会との共同開催で実施した。大学、短大、専門学校を取り巻く環境は年々厳しさを増し、教員研修をこれまで通り継続するのが難しくなっているが、このような共同開催という形を取ることで、学びの場が生まれ、そこに新しいスポーツや人といったさまざまな出会いも生まれたことにまずは感謝を申し上げたい。研修会では、インディアカの楽しさ・面白さを理解するため試合を多く行なったが、これができるのも参加者が大勢集まったからだと言える。ここ数年の関東・甲信越ブロック研修会を振り返ると、少人数だからこそ参加者同士が親しくなり、研修の内容についてより深く理解できるといった良い面があった。しかし、やはりある程度の人数が集まることによって経験できることが増えるため、効果的な研修を継続していくために柔軟な考え方を取り入れる必要性を感じた。



以上